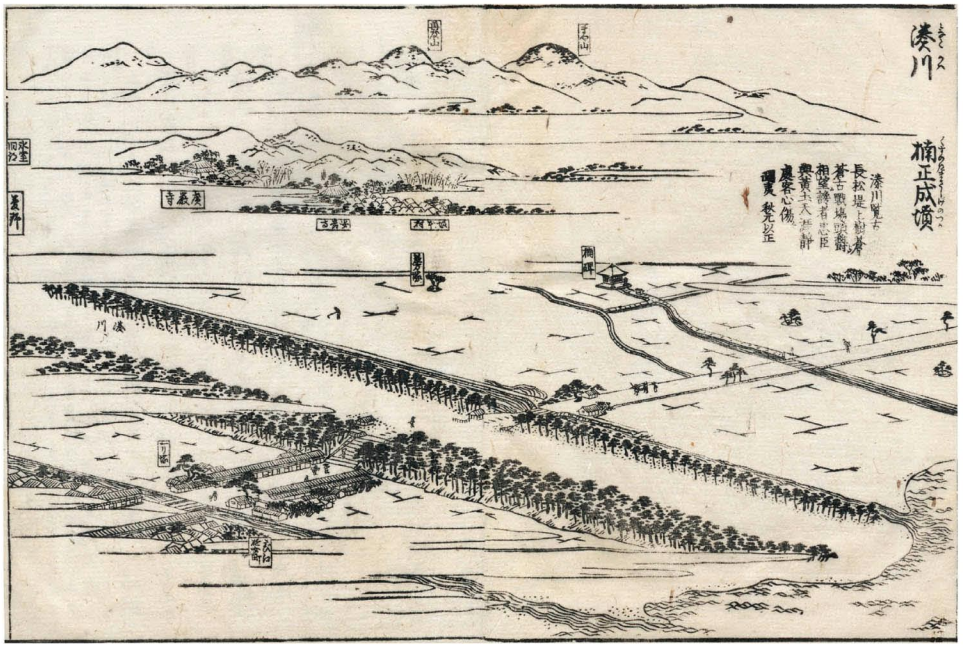
湊川から新開地へ

「新開地」つまり「新しく開けた土地」は、本来「湊川」という冠がついて「湊川新開地」といった。かつて川筋だったことが忘れられて一般名詞である「新開地」が独り歩きし、固有名詞化した。近代神戸を代表する詩人・竹中郁はこう述べている。

新開地という名がついたときいて、ヘンな名だなあとかんじました。それまでは「ドテ」という名でなじんでいました。（神戸史学会編『歴史と神戸』1964年4月号）

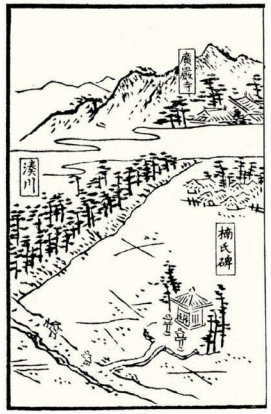


寛政期に流行った名所案内『摂津名所図会』（1796）に見える湊川と楠木正成墳。湊川はすでに天井川となっていて坂を登らなければならなかったが、ふだんは水がなく歩いて渡れた。

湊川は高さ6mにおよぶ堤防（土手）をもつ天井川で、兵庫と神戸のあいだに横たわって交通の妨げとなっていた。明治中期の地図を見ると鉄道の神戸ステーションが川の手前でストップし、ねじ曲がっている。流出土砂による三角州は海に突き出て二つの港を分断している。

楠木正成と足利尊氏の湊川の戦いでも知られる湊川の名は、古くは8世紀の法隆寺の史料にも登場する（弥奈刀川）。もとは今の上沢、下沢、永沢あたりを通って和田岬の方へ注いでいたとされる（古湊川）。扇状地を流れるため流路不安定で氾濫を頻発、その後、今の新開地方面に付け替えられて両側に堤防が築かれ、天井川となった（旧湊川）。見晴らしのよい高い土手に老松の茂る景勝地で、江戸期の名所案内にはこう謳われている。

兵庫名所　七宮祭り　和田の笠松　築島寺　梅は岡本　桜は生田　松は兵庫の湊川

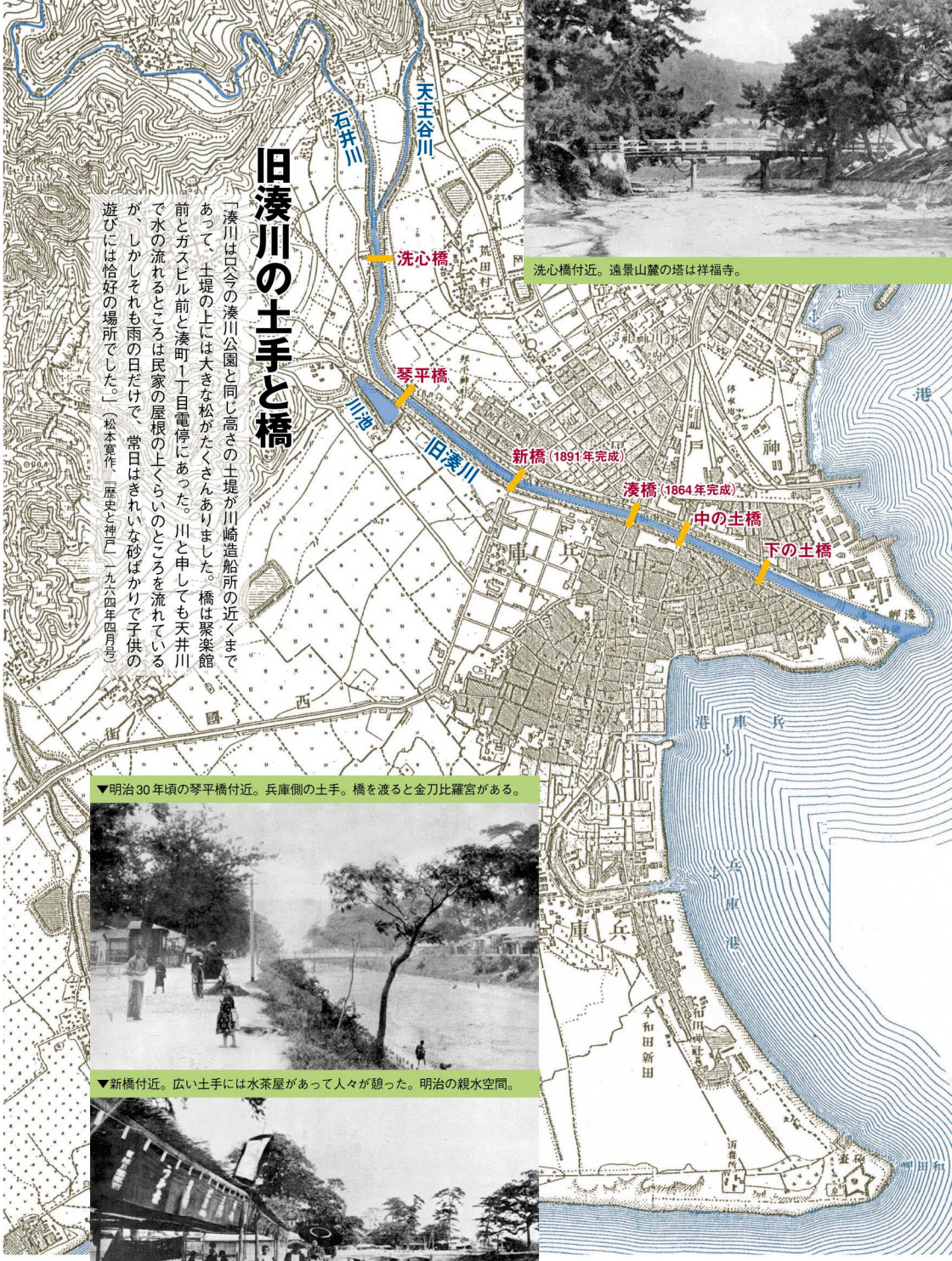


大阪から播州姫路までの街道沿いの名所案内『播磨めぐり』（1772年）に見える楠公碑と湊川。

旧湊川の土手と橋

「湊川は只今の湊川公園と同じ高さの土堤が川崎造船所の近くまであって、土堤の上には大きな松がたくさんありました。橋は聚楽館前とガスビル前と湊町1丁目電停にあった。川と申しても天井川で水の流れるところは民家の屋根の上くらいのところを流れているが、しかしそれも雨の日だけで、常日はきれいな砂ばかりで子供の遊びには恰好の場所でした。」（松本寛作『歴史と神戸』一九六四年四月号）

洗心橋付近。遠景山麓の塔は祥福寺。



▼明治30年頃の琴平橋付近。兵庫側の土手。橋を渡ると金刀比羅宮がある。

▼新橋付近。広い土手には水茶屋があって人々が憩った。明治の親水空間。

明治18/19（1885/86）年二万分の一地形図（大日本帝国参謀本部陸軍部測量局作成）に基づく

湊川隧道（みなとがわずいどう）

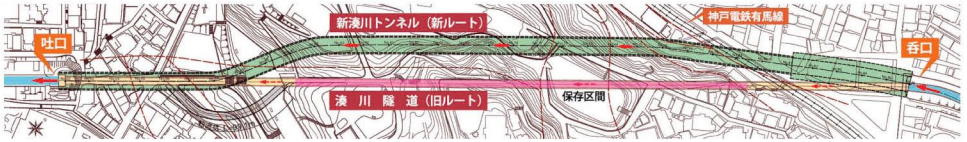
明治34年（1901）8月竣工

砂礫と粘土層からなる会下山の掘削は難工事。ツルハシとシャベルの手掘りで600m掘り抜いた。写真は東側の入口（呑口）。坑門デザインは古典様式。湊川と大書された石の扁額は今、新湊川トンネルの呑口を飾っている。

旧湊川の移動は賑やかな新開地を生んだが、新湊川の移動は沈黙の地下空間を残した。会下山の下に横たわる百年前の長大な煉瓦トンネル、「湊川隧道」がそれである。

湊川の付替え工事は、兵庫運河開削と烏原貯水池・奥平野浄水場などの上水道事業と並ぶ、明治期神戸の三大土木事業のひとつだった。
4年にわたる工事は、洗心橋のところから新しい水路を掘り、会下山の下をトンネルで通したあと西に向かい、苅藻川と合流させて海へ流す、という大規模なもので、民間の湊川改修株式会社が請け負い、当時有数の土木技術者が関わった。施工は大倉組（現・大成建設）。
湊川隧道はこの際につくられた日本初の河川トンネル。延長約600m、幅7.3m、高さ7.7mの馬蹄形断面のトンネルが、約450万個の手積みの煉瓦で築造されており、当時世界最大級といわれる。
トラックもクレーンもない時代に、10tトラックで1400万台にあたるという大量の煉瓦が、泉州から船で運ばれ、神戸港から陸送され、ひとつひとつ手で積まれていった。当時最先端の土木工学技術と、職人たちの手わざは阪神淡路大震災にも耐えぬいた。百年間、川の水が通過しただけの内部空間は、瞑想的ともいえる気配に満ちている。

側壁はイギリス積み、アーチ部は長手積み、天井の一部は竪積みなど、煉瓦は場所に応じて異なる積み方が工夫されている。川の流れる河床部は、煉瓦の上に洗掘摩耗に強い花崗岩を切石として敷き詰めている。



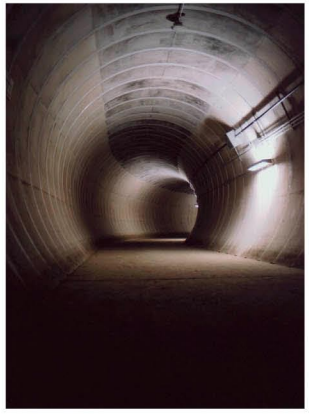
湊川隧道パンフレット（神戸土木事務所）に基づき作成

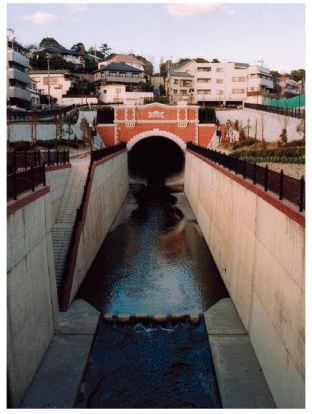
大震災後の新湊川の復旧工事に伴って、北側に新たにバイパストンネルがつくられた（新湊川トンネル）。役目を終えた湊川隧道は、高い歴史的価値をもつ近代土木遺産の傑作として、全面保存されることになった。2001年7月には隧道の保存活用を考える「湊川隧道保存友の会」が設立された。

＊まだ一般公開はされていないが、土木の日（11月18日）など年に数回見学会が開催される。市民による活用方法のアイデアも募集している。

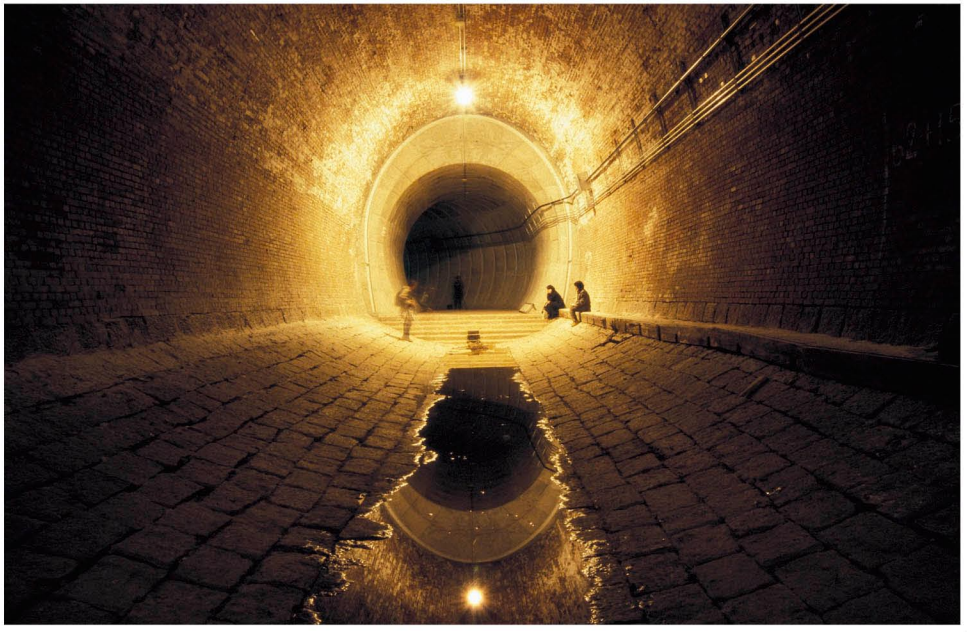
■問合せ
・兵庫県神戸県民局県土整備部神戸土木事務所　http://web.pref.hyogo.jp/kobe/doboku/minatogawa/
・湊川隧道保存友の会事務局
TEL&FAX 078-371-3536

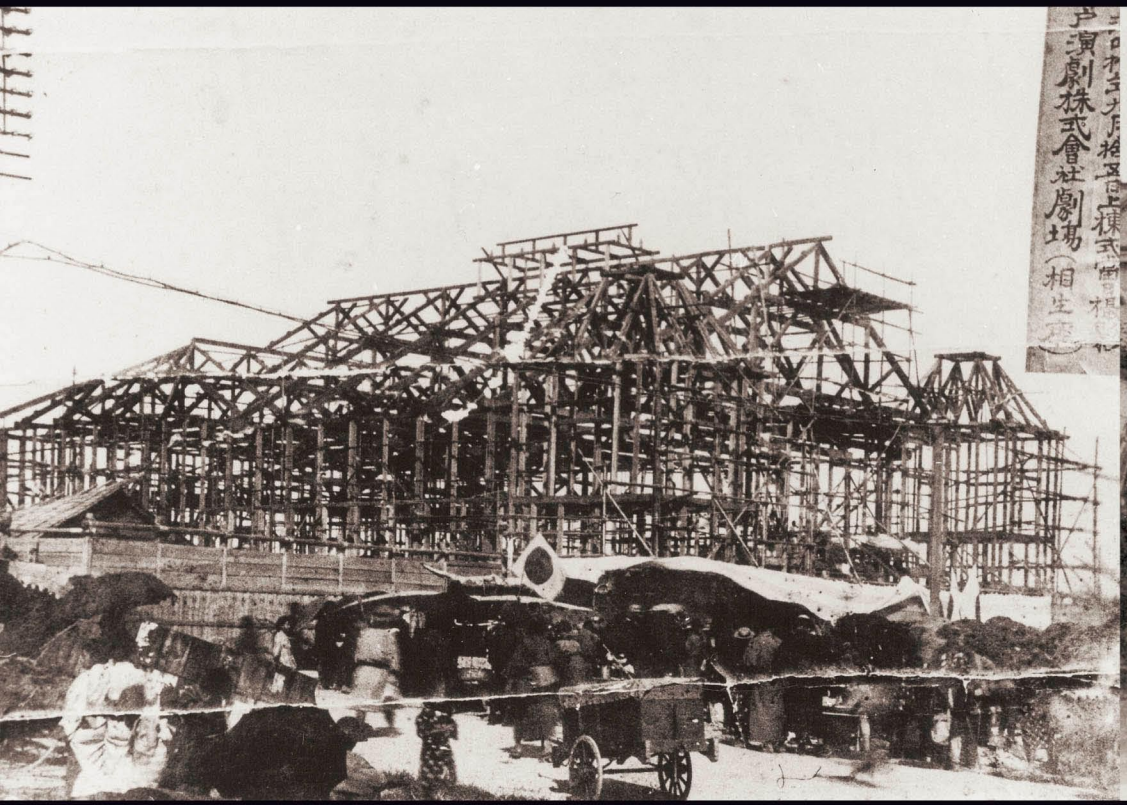
■呑口側へのアクセス［広域地図❶］
神戸電鉄湊川駅より750m　徒歩10分
熊野橋バス停下車280m　徒歩約4分





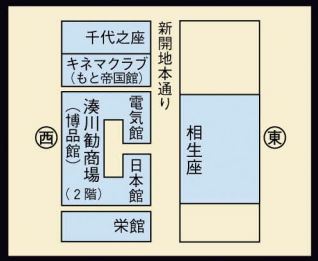
上：旧隧道と新湊川トンネルの間につくられた転流坑。昔の施工法と対比できる。
右：ゴシック様式のデザインが復元された西側の出口（吐口）。天地悠久をうたう老子の言葉「天長地久」を刻んだ百年前の扁額がそのまま飾られている。





新開地誕生

神戸駅近くの相生町にあった相生座が明治38年、山田九州男（山田五十鈴の父）一座の公演中に出火し全焼したため、明治40年、荒れ地だった新開地に進出した。写真は9月の上棟式。歓楽街の「新開地」が生まれた瞬間であったといえる。この後、次々と劇場や映画館が立ち並ぶことになる。河原に大道芸人が集まり、商売と結びつきながら演劇空間が発展するという歴史的パターンが、もと川筋だった新開地でみごとに実現されていく。（写真：神戸新聞社提供）



明治末の興業場の位置関係

湊川神社時代の水族館

明治末期、誕生間もない新開地。本通りを南に望む。左に相生座。右に帝国館、湊川勧商場（後の神戸デパート）、栄館（現在のポートピアあたり）が見える。帝国館の建物は湊川神社にあった水族館が移築されたもの。湊川勧商場の一階には電気館と日本館という映画館があり、淀川長治さんの母親が鑑賞中に産気づいたという。

細川能嗣（54歳）
オリンピア
TEL 078-575-5298［地図8］

親父が果物屋やってて福原に品物を入れとったけど赤線の廃止でパチンコに商売替えをしたんや。商売、山あり谷ありやけど新開地はうちらにとっては商売しやすいまちやな。近くに同じ業種が何軒もある方がええねん。うちが新台入れて失敗してもお客さんはよその地域に行かへんから独占と違って競合がええってこっちゃ。パチンコのイメージは色々あるけど遊技場は風俗営業法の7号に定められてる許可営業やから、警察から守られてるみたいなもんでしっかりしとるで。

大正12年から先代が長田で始めたこの商売。おおもとは姫路の造り酒屋ですわ。昭和30年頃こちらにも店舗を出したんです。その当時はうちみたいな立ち飲み場所付きの酒屋さんがここらにようけありましてね。安上がりやし、川重の職人さんが帰りがけに寄ってくれて忙しかったね。親はかまってくれへんけど近所の年上がよう面倒みてくれたなぁ。いろんな家庭があったから、貧しさやいいかげんさも混じりあって、いろんなことを教えてくれる街やったんとちがうかな。

岡本充治（50歳）
岡本酒店
TEL 078-577-4976［地図9］

神戸タワー 1924－1968

Kobe Tower

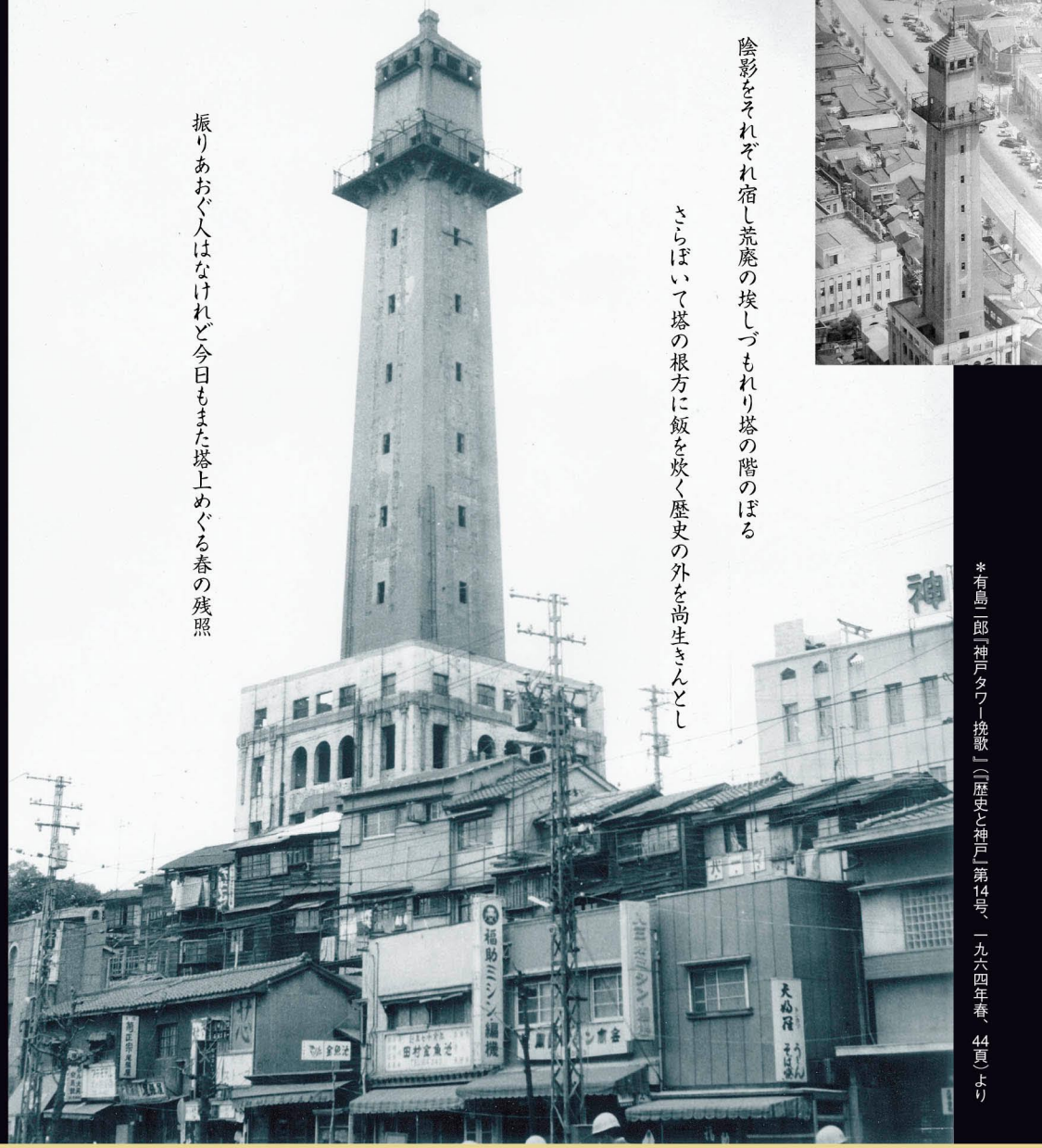
湊川新開地のシンボル・神戸タワーの建設と解体の時期は、それぞれこの町の大変貌の時期と重なり合っている。建設された大正13年は、湊川公園に音楽堂もできて町全体が華やいだ成熟を見せ、まもなく神戸有馬電気鉄道の湊川駅も開設されて（昭和3年）、新開地は昭和の黄金時代を迎える。解体された昭和43年は、神戸高速鉄道が開業し、阪神・阪急・山陽・神鉄の路線がつながって新開地がターミナル地としての存在意義を失い、人の流れが途絶えていく時期である。44年間、公園の西隅にそびえながら、塔は何を見ていたか。

昭和初期～
ハープ＋ベルベット石鹸時代

1924年3月開業、高さ海抜90m

1934年～：阪神電車時代

戦前～戦後：ビオフェルミン時代



陰影をそれぞれ宿し荒廃の埃しづもれり塔の階のぼる

さらぼいて塔の根方に飯を炊く歴史の外を尚生きんとし

振りあおぐ人はなけれど今日もまた塔上めぐる春の残照

＊有島二郎『神戸タワー挽歌』（『歴史と神戸』第14号、一九六四年春、44頁）より

村上実（75歳）
村上ユニフォーム
TEL 078-575-0050［地図29］

ここだけの話、私の一番の思い出ゆうたら神戸タワーによじ登ったことですわ。戦災で、ビオフェルミンの看板や欄干もところどころ中ぶらりんになっていて危険でね、よつん這いで上がりましたな。当時はまだ市内もバラック小屋ばかりで海の方まで見渡せましたよ。まぁ若かったんやろうね、肝試しですわ。24才の働き盛りにここへ来たから遊びの思い出いうてもこれぐらい。「ええとこええとこ聚楽館」。でも私は、石辺金吉（かたぶつ屋のこと）で通ってましたな。

那須欣吾（74歳）
公園模型
TEL 078-576-4822［地図30］

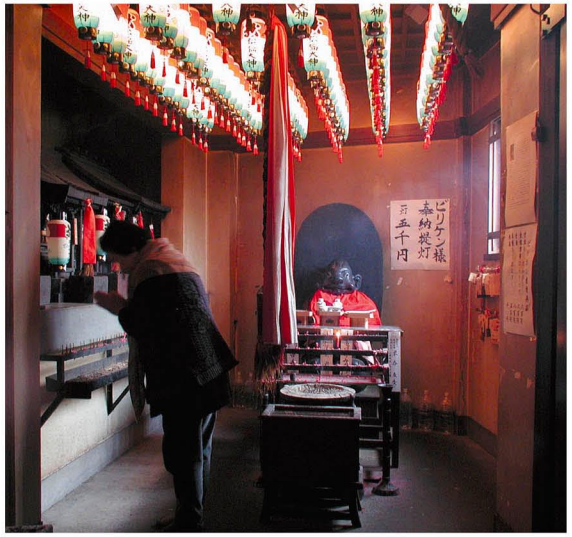
模型が趣味で、始めて46年になる。それ以前は銃砲店をやってたんやけど、規制が厳しくなってやめた。神戸タワーがなくなる時に、このミナエンタウンができて移ってきたんや。そやな、模型の数はどれくらいかわからんな、何万とあるやろ。鉄人28号とか探しに来るお客さんもいる。模型は図面を読んで、自分の手で組み立てるもん。モーターが何で動くかとか、物の原理を覚えて動かすおもしろさがあるんや。今の子には作れんやろな。今のおもちゃは簡単すぎるわ。

松尾稲荷とビリケン様

Matsuo Inari shrine and Billiken

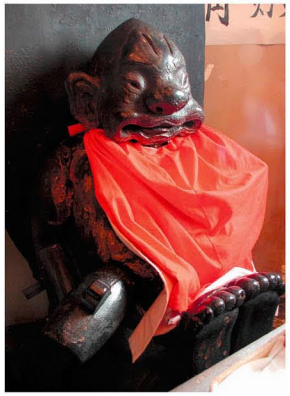
松尾稲荷神社、通称「松尾さん」は、KAVC から南へ約500m。もと旧湊川の土手の西下にあって「ドテのお稲荷さん」とも言われた。水商売の女性を中心に信仰を集め、終戦までは深夜も参拝客が絶えなかったという。かつては土手から社までたくさんの鳥居があったといい、現在も参道に赤い鳥居が立ち並ぶ。大正3年に改築された白木の本殿は、日夜絶えない線香と蝋燭(ろうそく)の煙で柱も壁も真っ黒。天井には数百本の奉納提灯が吊るされている。神社の横には稲荷市場がある。

松尾稲荷神社
TEL 078-671-6444
［広域地図 11］



左：ビリケンの祀られたお堂。黒い後背がじつは金の小判とは・・・。
右上：幅1間もないユニークな稲荷市場。
右下：「ビリケン」となまった呼び名を冠した写真店の看板。さてどこにあるでしょう？

松尾稲荷の奥のお堂に大きな「ビリケン様」が祀られている。"BILLIKEN" は、1907年にアメリカ・ミズーリ州の女性美術家フローレンス・プリッツ（Florence Pretz）が中国の偶像に想を得てつくった彫刻で、1909年に「幸福の神」としてマスコット化されて米国内で大流行した。名前をつけたのは売り出したシカゴの会社で、当時アメリカ大統領だったウィリアム・タフトの愛称ビルにちなんだという。まもなく日本にも渡来し、東京の田村駒治郎や大阪・新世界のルナパークの複製が知られているが、それらが比較的原型を踏襲しているのに対し、神戸のビリケンは造形的にもユニークだ。
それは、1910年代初めにアメリカの船員が神戸に持ち込んだビリケンを見て、元町の洋食店主が木彫でまねてつくったもの。その際に日本古来の大黒様とフュージョンした。主な変化は表の通り。全身に朱漆(しゅうるし)を塗って、金色の小判を背に米俵に座る異形のビリケンは、商売繁盛を祈ってしばらく店頭に置かれていた。松尾稲荷に奉納されたのは大正末頃という。
折衷的なコピーがオリジナルより面白いという例は造形の世界にときどきある。原型のビリケンは非西洋圏の偶像を参照しているが、腕の扱いが中途半端だ。松尾稲荷のビリケンは手も口元もより動きがある。現在はさらに、赤いよだれ掛けをまとって「お地蔵さま」をも取り込み、あらゆる祈願を受け入れる万能福の神「松福様」として、線香の煙に包まれている。



右手に打ち出の小槌。左手にもつ瑞玉には賽銭を入れる口もある。ふだんはよだれ掛けに隠れている。背中の小判には豊臣・徳川両家の家紋を配してあったが、現在は煤けて見えにくい。

元祖ビリケン	松尾稲荷のビリケン
両手を下げる	右手に打ち出の小槌、左手に瑞玉を持つ
トンガリ頭、唇閉じてニンマリ笑う	頭はやや丸く平たくなり、唇開いて表情あいまい
後背はゴシック教会の尖頭アーチと丸窓	後背は小判、トタン製金泥塗り（現在は黒ずんでいる）
二壇式の台座に乗る	二つの米俵に乗る

左：現在のビリケン人形（松福様）。見方によっては大黒様がビリケンを吸収したともいえる。
中と右：大正初期に渡来した元祖ビリケン人形とオリジナルの台座。共に大理石製。（松尾稲荷神社蔵）

昭和9年11月、みなと祭りの際に福原の桜筋で行われた花魁道中。花魁は重い金襴の打ちかけ、一本歯の高下駄で作法よろしく悠々と歩く。芸妓たちも動員されて三味線、太鼓を伴奏する。福原ならではの風景に見物客が殺到、警官が縄を張って混雑をさばいた。
写真に写っている先導役の二人の子供の左側は、この頁の下に登場する小野和代さん本人である。これは、このガイドブック制作プロジェクトのために開かれたワークショップ『新開地夜話』（2003年2月22日）で偶然判明した。

福原の花魁

桜筋の桜並木は健在。金刀比羅宮はこの奥にある。

福原桜筋の北辺に金刀比羅宮がある。明治15年、福原遊廓の繁栄を祈ってもと妙見堂のあった地に建てられた。この神社の名前から、すぐ西の湊川にかかっていた橋は琴平橋といわれた。
神社の中にはなぜかたくさんの潜水艦の写真が奉納されている。金毘羅神はもともとガンジス河にすむワニが神格化されたもので、船人に崇拝されてきた。神戸港に寄港する潜水艦の乗組員たちの安全を、ここ福原のこんぴらさんが見守っている。
［地図 **82**］

小野和代（77歳）
福原婦人会
兵庫区在住

私は生まれも育ちも福原です。父が福原で歯科医院を開いて、母が置屋商売をしていたこともあり、子供の頃はきれいな花魁にあこがれて、みなと祭りの花魁道中の前を歩く役をさせて頂いたこともあるんですよ。お転婆だったので、新開地には聚楽館のアイススケート場に遊びに行ったり、父についてお茶屋さんに通ったりしてました。「桜筋」の名前はここに桜並木があったことからきてます。昔は三味線流しの菊丸さんがいはったし、福原はゆったりした風情があるまちでした。今でも私は福原が好きですね。

6年前に神戸駅の近くに喫茶店兼多国籍料理の店を開いてたんです。だけどひどい大病にかかって店をたたんで治療に専念、そのときに「人生思いっきり好きなことして生きよう！」って決めた。新開地でパチンコに行くと、ワケアリな人から社長夫人までいろんな人と出会えて面白いですよ。パチンコ屋のイメージが良くなりましたね。新開地は美味しい店もB級グルメから老舗まで沢山あるし、おしゃれな住宅街では出来ないコミュニケーションがあるし、すっぴんで自転車で出かけられる気軽さがうれしいですね。

石橋千栄子（39歳）
relaxation-salon 和み
TEL 090-3652-6783［地図 **69**］